

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 30 年度病虫害発生予察注意報第 2 号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第 2 号（果樹カメムシ類の果樹園への飛来について）を
発表したの送付します。

注意報第 2 号

- 1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 発生地域：県下全域
- 4 飛来時期の発生量：前年・平成 26 年より多
(平成 26 年は、越冬量とヒノキ球果着生量が本年と同程度)
- 5 果樹園への飛来時期：県平均 8 月中旬頃（早い地域は 7 月末頃）
- 6 注意報の根拠
 - (1) チャバネアオカメムシの越冬量
チャバネアオカメムシの越冬量は 3.8 頭/m²と前年より多かった（表 1）
 - (2) ヒノキ球果着生量
ヒノキ球果の着生量は中程度と前年よりやや少なかった（表 2）。
 - (3) 7 月 5 半旬の予察調査結果
 - ア. ヒノキ球果のビーティング調査
果樹カメムシ類捕獲虫数は、前年および平成 26 年より多かった（表 3）。
成虫数 7.1 頭（前年 2.6 頭、平成 26 年 8.2 頭）
幼虫数 16.6 頭（前年 3.3 頭、平成 26 年 5.7 頭）
※調査地点数：14
※平成 26 年は、越冬量とヒノキ球果着生量が本年と同程度
 - イ. ヒノキ球果の口針鞘数調査
1 球果当たり口針鞘数は、前年および平成 26 年より多かった（表 4）。
口針鞘数 7.3 本（前年 0.7 本、平成 26 年 2.8 本）
※地点あたり調査球果数：20、調査地点数：14
※平成 26 年は、越冬量とヒノキ球果着生量が本年と同程度

表1 チャバネアオカメムシの1㎡あたり越冬虫数

	本年	前年	平成26年
チャバネアオカメムシ越冬量(頭/㎡)	3.8	0.9	4.8

表2 ヒノキ球果の着生量

	本年	前年	平成26年
ヒノキ球果着生量 ^{注)}	中 4.4	やや多 5.0	中 3.5

注) ヒノキ球果着生量の評価と値は、7段階での達観評価。
 地域に植栽されているヒノキを可能な限り調査し、総合的に判断。

表3 ヒノキ球果ビーティング調査による果樹カメムシ類捕獲虫数

調査地点名	チャバネアオカメムシ									果樹カメムシ類				
	成虫数	幼虫数						計	幼虫比(%)	成虫数	幼虫数	計	幼虫比(%)	
		1令	2令	3令	4令	5令	計							
福岡・飯塚	筑前町炊田	0	1	4	0	0	0	5	5	100	2	19	21	90
	糸島市高祖(本)	2	0	7	0	0	0	7	9	78	4	7	11	64
	宗像市王丸	3	0	0	0	0	1	1	4	25	4	1	5	20
	飯塚市山倉	7	0	2	1	2	1	6	13	46	7	10	17	59
	平均(4か所)	3	0.3	3.3	0.3	0.5	0.5	4.8	7.8	62.2	4.3	9.3	13.5	58.2
久留米	久留米市田主丸町石垣	4	6	7	4	2	5	24	28	86	8	35	43	81
	うきは市吉井町福益	1	11	9	1	0	1	22	23	96	8	39	47	83
	うきは市吉井町屋部	2	0	14	6	7	6	33	35	94	4	59	63	94
	平均(3か所)	2.3	5.7	10	3.7	3	4	26.3	28.7	91.9	6.7	44.3	51	86.0
朝倉	朝倉市鳥集院	2	2	2	0	1	0	5	7	71	2	5	7	71
	朝倉市宮野	8	2	1	2	1	0	6	14	43	13	7	20	35
	朝倉市杷木志波	9	3	2	9	11	7	32	41	78	9	37	46	80
	平均(3か所)	6	2	1.7	4	4	2.3	14.3	20.7	64.1	8	16.3	24.3	62.3
八女	八女市黒木町今	6	0	0	0	0	0	0	6	0	7	0	7	0
	八女市飛形山	0	0	0	0	0	0	0	0	-	11	4	15	27
	みやま市山川町立山	14	0	0	0	1	1	2	16	13	19	5	24	21
	平均(3か所)	6.7	0	0	0	0	0	1	7.3	6.3	12.3	3.0	15.3	16
京築	みやこ町勝山大久保	1	0	2	2	0	0	4	5	80	1	4	5	80
	京築地区	1	0	2	2	0	0	4	5	80	1	4	5	80
平均(14か所)		4.2	1.8	3.6	1.8	1.8	1.6	10.5	14.7	71.4	7.1	16.6	23.6	70.1
2017年(平成29年)		1.5	0.1	0.4	0.2	0.4	0.9	1.9	3.4	53.1	2.6	3.3	5.9	56.3
2016年(平成28年)		0.9	0.4	1.1	0.4	0.1	0.2	2.1	3.0	80.8	1.1	2.4	3.5	80.8
2014年(平成26年)		6.2	0.3	3.4	0.8	0.3	0.2	5.0	11.2	51.4	8.2	5.7	13.8	41.0

注1) ビーティング調査は、1地点5枝、1枝当たり5回のたたき落としの結果。

注2) 「果樹カメムシ類」の項目は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種合計を記載。

注3) チャバネアオカメムシの卵から成虫になるまでの期間は、夏期の気温で約30~40日。

注4) 小数点以下の数値がある場合は、小数点第2位を四捨五入し記載。

注5) 2014年は、越冬量とヒノキ球果着生量が同程度の類似年。

表4 ヒノキ球果口針鞘数とその数から予測した果樹カメムシ類新世代成虫の飛来時期

調査場所	ヒノキ球果		新世代成虫の飛来 予測時期	
	被害球果率 (%)	口針鞘数 (本)		
福岡・飯塚	筑前町炊田	90	2.6	8月下旬 (早い地域では8月中旬)
	糸島市高祖 (本)	70	2.5	
	宗像市王丸	70	1.6	
	飯塚市山倉	95	7.4	
	平均 (4か所)	81	3.5	
久留米	久留米市田主丸町石垣	100	7.1	8月上旬 (早い地域では7月末)
	うきは市吉井町福益	100	8.4	
	うきは市吉井町屋部	100	15.9	
	平均 (3か所)	100	10.4	
朝倉	朝倉市鳥集院	75	4.5	8月中旬
	朝倉市宮野	100	5.8	
	朝倉市杷木志波	100	8.9	
	平均 (3か所)	92	6.4	
八女	八女市黒木町今	95	6.7	8月中旬 (早い地域では7月末)
	八女市飛形山	100	7.6	
	みやま市山川町立山	100	13.3	
	平均 (3か所)	98	9.2	
京築	みやこ町勝山大久保	90	10.4	8月上旬
	京築地区	90	10.4	
平均 (14か所)		91.8	7.3	8月中旬
2017年 (平成29年)		27.1	0.7	
2016年 (平成28年)		47	1.9	
2014年 (平成26年)		66.5	2.8	

注1) 1地点20球果を調査し、1球果当たりの平均を記載。

注2) 新世代成虫の飛来予測時期は、堤らの予測式により算出した口針鞘数が25本に達する時期。

予測式: $Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$ (7月5半旬調査結果のみ適用可)

(Y: 球果採取日から離脱までの日数、X: 口針鞘数)

注3) 小数点以下の数値がある場合は、小数点第2位を四捨五入して記載。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹カメムシ類の飛来時期は地域により異なる。また、同一園内でも被害発生状況は偏りがあるため、園内全体を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- (2) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- (3) 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- (4) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- (5) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ病害虫の発生状況 (<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>) を参照する。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況